



歩いて感じる安全で魅力的な まちなかの形成を目指した 愛媛県伊予市のまちづくり

▲社会実験
当日の風景

官民連携によるまちづくり

愛媛県伊予市では、地域の住民と伊予市とが連携して、市の中心地区である「郡中中心拠点地区」を活性化させるために様々な事業に取り組んでいます。

今回は、伊予市役所都市住宅課の迫田様といよしみなみ地域振興会の皆様にお話を伺いました。

歴史的な景色を今に残す中心市街地を活気づけるには

伊予市の中心部である郡中中心拠点地区には、行政施設や教育文化施設等が集まっています。また郡中中心拠点地区の中央に位置する『灘町商店街』の通りには、歴史的建造物が残っており、その通りを「景観計画重点区域」として指定し、「点」ではなく「面」としてまちの魅力の保全に努めています。

また伊予市では、いよしみなみ地域振興会や地域住民が協力して魅力的なイベントを実施してきました。みなみ土曜夜市のような30年以上続くイベントもあります。地域住民の皆さんのつながりのおかげで今まで様々なイベントに取り組んでこれたと考えています。

インタビュー

いよしみなみ地域振興会

伊予市灘町南地区の商店会であり、地域の活性化に向けたさまざまな活動に取り組んでいる。

会長 平塚 秀樹さん

会員 竹田 惣一さん

会員 佐々木 ミツ子さん

会員 山崎 由紀子さん

会員 北岡 正壽さん

会員 宮内 幹男さん

会員 門田 眞一さん

伊予市 産業建設部

都市住宅課 都市計画担当

迫田 綱蔵さん





▲30年以上続くみなみ土曜夜市での賑い



▲地元検討会での討論



▲先進事例（松山市）の視察



▲松山市の社会実験を学ぶ

しかし近年になってくると、商店街の空き家や空き地が増えています。2005年には商店街に155店舗もの店が並んでいましたが、2019年には約4割がお店をたたみました。高齢化率は30%を超え、人口も減少していることから、何とかして中心市街地の魅力を向上させて、まちを活性化させる必要があります。

そこで伊予市は、2016年から郡中心拠点地区の都市再生整備計画として、『住む人、訪れる人が安全で快適に行き交うまちづくり』を目指し、にぎわいや活力の創出に向けてまちづくりの事業を進めることになりました。

この事業の実施にあたっては、商店街を訪れた人が休憩したり交流できる広場を整備したり、道路空間の安全性や回遊性を目的とした社会実験を行うなど、地域の住民と一緒に取り組んでいます。

もともと地域の住民は沢山のイベントに取り組んできました。今までイベントで培われてきた『つながり』があったからこそ、新しい事にも率先して取り組むことができたのだと思います。

社会実験してみませんか

以前より、伊予市の商店街の中心を通る市道灘町中央線は通過車両が多く、歩きにくいという現状がありました。この時、松山市をはじめ、いくつかの自治体で社会実験を実施していることに着目していました。そこで、地域の住民の方の交通や回遊性に対する意識を変えたいと思い、平成30年に都市再生整備計画を活用した道路交通の社会実験を試みてはどうかと地域の住民に提案しました。それからは検討会で地域の住民と協議を重ねました。1年目は、現実可能な場所について検討し、国鉄通りでの実施を決定しました。2年目では、実際の運営や企画のノウハウを学ぶため、既に社会実験を実施していた松山市へ視察に行きました。松山市では車道を減らして、歩行者空間を増やし、町のイベントを実施しているという事例（花園町通り等）であったため、社会実験の企画や運営方法、実施に係る知見を得ることができました。また、同社会実験関係者へのヒアリングを通して、市民の巻き込み方を学ぶことができました。



▲子供たちとのDIYワークショップ



▲片側一方通行の国鉄通りに並ぶDIYの作品



▲国鉄通りおさんぽプロジェクトのチラシ



▲訪れた人が交流できる場の創出

市民参加促進への取り組み

伊予市の社会実験では、市民が主体となつて企画や運営、実施を行うために、意思決定を行う実行委員会と企画運営を行う作業部会の2層構造での体制を構築しました。また作業部会では、企画班や広報班、渉外班といったチーム別のチームを編成し、作業部会のメンバー以外の住民や学生も含めて、幅広いプレイヤーを巻き込んだ動きを誘発する体制を計画しました。また社会実験で使用するベンチや掲示板、プランター等を作成する市民参加型のロムワークショップを実施しました。このロムワークショップで作成したものは、地元の製材所の資材を活用しており、また子供でも容易に制作が可能なデザインで設計しました。

ワークショップ当日は暑い時期で、少し大変でしたが、多くの子供たちに手伝ってもらうことができました。学校からぜひ協力したいという話もあり、参加者から大変好評でした。今回作成したプランターなどは今後社会実験を実施していく際にも使いたいと考えているので、大切に保管しています。

普段と違う国鉄通りを歩く

このようにして地域の住民と伊予市との連携によって着々と準備をすすめていき、2019年10月18日〜10月19日に社会実験「国鉄通りおさんぽプロジェクト」を実施しました。当日は、道路を片側一方通行として、安全な歩行者空間を確保した上で、ロムワークショップで作成したベンチやプランターなどを設置しました。また各オープンスペースには屋台やキッチンカーを設置し、交流や休憩など街中で楽しめる空間を作り出しました。

普段の国鉄通りは、日中で1日に30〜40人程度が利用するのですが、このイベント時には2日間で約940人が訪れました。訪れた人の中にはロムワークショップで自分の子供が作成したものを見るために訪れる家族や、周辺の老人保健施設の方もいました。

またこのイベントでは、社会実験のアクティビティ調査を実施しています。この調査では、社会科勉強の意味も込めて地域の中学生達に協力してもらいました。調査によるとこの社会実験によって、



▲普段の灘町ポケットパーク



▲防災イベント時の灘町ポケットパーク



▲かまどベンチ



▲あずまや



▲消火器の使い方を知る子供達

同年4月には、商店街周辺で積極的に活動している自主防災組織と、いよしみなみ地域振興会等が協力して、広場の完成を記念した防災イベントを開催しました。イベントの参加者は、かまどベンチの組み立て方や、あずまやの側面を覆うテントを張り方など災害時の行動を学びました。子供たちは

またこの広場には、災害時に炊き出しができる「かまどベンチ」やテントを張ることができる「あずまや」が設置されており、災害時には臨時避難場所のような活用が見込まれます。

2019年3月、伊予市は郡中中心拠点地区に「灘町ポケットパーク」という広場を整備しました。この広場は、地域の住民や商店街を訪れた人が憩うことができる場所として整備されました。

災害時に活躍する憩いの場

イベント時のアクティビティ（会話、飲食、スマホいじり、撮影等）は、普段の20倍も発生しました。地域住民と伊予市の連携によって行われた社会実験が、まちに新しいにぎわいを作り出したのだと考えています。

実際の消火器の使い方学んできました。また当日はうどんの炊き出しを行い、大いに賑わいました。このようなオープンスペース自体は、災害時の避難場所になるだけでなく、商店街周辺の延焼抑止の効果も見込まれます。

人々の集いと憩いをつくり続けていく

2020年3月14日には、南伊予駅が開業しました。伊予市には多くの駅があるので、将来的には、伊予市を訪れた人が駅から商店街周辺を回遊したくなる環境の実現を考えています。また商店街の空き店舗活用や、リノベーション事業にも取り組み、「楽しいまち」を目指し、行政と民間が連携したまちづくりに取り組みます。

まちづくりのポイント

今までの地域住民同士のつながりにより、都市再生整備計画の取組である社会実験や防災イベントが成功したと考えられます。住民と市が連携した取組は多くの自治体にとって参考になると考えられます。